



2013年9月2日

卓話 『変貌するロータリーと活動方針』

国際ロータリー第2750地区
山の手東グループガバナー補佐

木村 眞 様

皆さんこんにちは。今日のテーマは「ロータリーの変貌と活動方針」です。

まず今年度のロータリーの活動方針。RIバートン会長の方針は”Engage Rotary Change Lives (ロータリーを実践し皆に豊かな人生を)”です。強調事項は会員増強の推進で、2015年までに130万人の会員の達成を提案しています。2番目のロータリー財団を通じた人道的奉仕の充実は、財団が2017年に100周年を迎えるのを機にRIにおける財団をもっと使いやすくしようということで、今年度から新しい財団の運営が始まりました。そして舟木ガバナーは、実践は社会の変革に合った形でなされなければならないということで、「新しい風を感じとることができる活動」を初めての女性ガバナーとして打ちだされております。

ロータリーの長期計画によれば、ロータリーの本質は「地域の人々の生活を改善したいという情熱を社会に注いでいる献身的な人々の世界的なネットワーク」であり、その使命は「他者に奉仕し、高潔性を推進し、事業と専門職務及び地域社会のリーダーの間の親睦を通じて世界理解、親善、平和を推進する」ことであるとされています。

どうして奉仕活動を中心とした形に変遷してきたのかということですが、ロータリーは1905年、ポール・ハリスによって親睦と互助を中心とした草の根運動的なクラブとして設立されました。2、3年後、何か地域社会に貢献をということで奉仕活動が導入され、さらに1910年「最もよく奉仕するものが最も多く報いられる」という奉仕哲学が導入されます。さらに2、3年後「超我の奉仕」の思想が導入され、会員もクラブ数も

増えて全米ロータリー連合会となります。1912年、5カ国、44クラブ、会員5千名になり、国際ロータリー連合会に改称されました。

ロータリーを大きく変えたものに三つの危機があったと言われています。その一つが第一次世界大戦で、そのときからロータリーは平和をテーマにするようになり、徐々に団体としての社会奉仕活動が盛んになります。二つ目が1929年の世界的大不況。そして三つ目、ロータリーが人道的な奉仕活動に大きく変わるのは第二次世界大戦の時です。1962年、世界社会奉仕活動がスタートし、初めてRIとして世界に対する人道的な奉仕活動が宣言されました。これが大きく実ったのが1978年の、世界平和のためにHealth, Humanity, Hungerに関する運動を進めようという3Hプロジェクトで、これが更に発展して1985年のポリオ・プラスとなり、ロータリー初めての募金運動が行われました。

ロータリーのパワーは何かと考えたとき、120万人の高潔な倫理観を持った草の根の人道奉仕団体であり、また会員によって集積された巨額の資金を持つ財団が存在していることだと思います。この活動を100年後の世代に繋げるのは我々の責任だと思います。そのためにはそれぞれのロータリー・クラブがその基盤を強化しなくてはならない。ここに会員増強の重要性があるわけです。

ご静聴ありがとうございました。

